

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2020年11月13日

【四半期会計期間】 第153期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 エンシュウ株式会社

【英訳名】 ENSHU Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 社長執行役員 山下 晴 央

【本店の所在の場所】 静岡県浜松市南区高塚町4888番地

【電話番号】 (053) 447-2111 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 副本部長 大野 裕 哉

【最寄りの連絡場所】 静岡県浜松市南区高塚町4888番地

【電話番号】 (053) 447-2111 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 副本部長 大野 裕 哉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第152期 第2四半期 連結累計期間	第153期 第2四半期 連結累計期間	第152期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (百万円)	13,780	9,199	27,125
経常利益又は経常損失() (百万円)	1,259	92	1,742
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益又は親会社株主に帰属する 四半期純損失() (百万円)	1,089	222	1,355
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,116	229	1,263
純資産額 (百万円)	9,657	9,511	9,804
総資産額 (百万円)	32,010	32,723	35,780
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	172.78	35.36	214.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	30.2	29.1	27.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,816	582	2,719
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	331	683	820
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,595	88	323
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,047	4,353	5,761

回次	第152期 第2四半期 連結会計期間	第153期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	92.84	48.82

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、工作機械関連事業部門、輸送機器関連事業部門共に減少したことから9,199百万円（前年同期比33.2%減）となりました。損益につきましては、営業損失は105百万円（前年同期は営業利益1,481百万円）となり、経常損失は92百万円（前年同期は経常利益1,259百万円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は222百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1,089百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

工作機械関連事業部門におきましては、新型コロナウイルス感染拡大による営業活動への影響や、一部案件の第3四半期以降への売上ずれ込み等により、売上高は5,803百万円（前年同期比33.3%減）となり、セグメント利益（営業利益）は257百万円（前年同期比81.5%減）となりました。

輸送機器関連事業部門におきましては、生産活動は7月以降徐々に回復しつつあるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響による客先の減産・稼働調整が大きく影響し、売上高は3,360百万円（前年同期比33.4%減）となりました。セグメント損失（営業損失）は、売上高の減少の影響等により388百万円（前年同期は営業利益64百万円）となりました。

その他部門におきましては、不動産賃貸業により売上高は35百万円（前年同期と同額）となり、セグメント利益（営業利益）は25百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,056百万円減少し32,723百万円となりました。この主な要因は、電子記録債権が772百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が1,599百万円、現金及び預金が1,491百万円、商品及び製品が464百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,763百万円減少し23,212百万円となりました。この主な要因は、長期借入金が増加したものの、支払手形及び買掛金が1,230百万円、未払金が899百万円、短期借入金が増加したことから800百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ292百万円減少し9,511百万円となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失222百万円を計上したことによるものであります。この結果、自己資本比率は29.1%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の営業活動による資金は、売上債権やたな卸資産の減少額を仕入債務や未払金の減少額が上回ったため582百万円の使用（前年同期は1,816百万円の獲得）となりました。投資活動による資金は、設備投資により683百万円（前年同期比106.3%増）の使用、財務活動による資金は、配当金の支払いやリース債務の返済により88百万円の使用（前年同期比97.6%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、4,353百万円と前連結会計年度末より1,408百万円減少いたしました。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は165百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

(1) 当社が技術供与をしている契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
遠州（青島）機床製造有限公司	中国	EV360Te、EV450Te GE15Ve、GE30Ve、WE30Ve 立形マシニングセンタ	製造に関する 技術及び販売 契約	2020年7月23日から 2023年7月22日まで (以後、2年ごとに自動更新)

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,353,454	6,353,454	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、100株であります。
計	6,353,454	6,353,454		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年9月30日		6,353,454		4,640		

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
エンシュウ取引先持株会	静岡県浜松市南区高塚町4888番地	712	11.30
ヤマハ発動機株式会社	静岡県磐田市新貝2500番地	645	10.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	265	4.21
浜松ホトニクス株式会社	静岡県浜松市東区市野町1126番地の1	200	3.17
前尾 和男	和歌山県紀の川市	186	2.96
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	157	2.49
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2番1号	145	2.30
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2番1号	141	2.24
前尾 吉信	和歌山県紀の川市	120	1.91
株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1丁目8番12号	109	1.73
計		2,685	42.58

(注) 株式数は千株未満を切り捨てて表示してあります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 47,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,277,900	62,779	
単元未満株式	普通株式 28,154		
発行済株式総数	6,353,454		
総株主の議決権		62,779	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれております。
 2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社の自己保有の自己株式99株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) エンシュウ株式会社	静岡県浜松市南区 高塚町4888番地	47,400		47,400	0.74
計		47,400		47,400	0.74

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,919	4,428
受取手形及び売掛金	5,075	3,475
電子記録債権	682	1,455
商品及び製品	2,969	2,505
仕掛品	5,104	4,826
原材料及び貯蔵品	1,641	1,524
その他	337	261
貸倒引当金	5	60
流動資産合計	21,724	18,416
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,659	2,653
機械装置及び運搬具（純額）	2,627	2,969
土地	7,392	7,392
その他（純額）	998	842
有形固定資産合計	13,677	13,857
無形固定資産		
その他	159	145
無形固定資産合計	159	145
投資その他の資産		
その他	220	307
貸倒引当金	2	2
投資その他の資産合計	218	304
固定資産合計	14,055	14,307
資産合計	35,780	32,723
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,480	1,249
電子記録債務	1,541	1,122
短期借入金	6,180	5,380
未払法人税等	31	53
賞与引当金	480	453
資産除去債務	76	61
その他	4,005	3,006
流動負債合計	14,795	11,328
固定負債		
長期借入金	5,700	6,500
役員退職慰労引当金	15	15
退職給付に係る負債	3,510	3,416
資産除去債務	43	43
その他	1,910	1,908
固定負債合計	11,180	11,883
負債合計	25,975	23,212

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,640	4,640
利益剰余金	2,357	2,071
自己株式	69	69
株主資本合計	6,929	6,642
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
土地再評価差額金	3,666	3,666
為替換算調整勘定	272	194
退職給付に係る調整累計額	1,063	992
その他の包括利益累計額合計	2,875	2,868
純資産合計	9,804	9,511
負債純資産合計	35,780	32,723

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	13,780	9,199
売上原価	10,853	8,101
売上総利益	2,926	1,097
販売費及び一般管理費	1 1,445	1 1,203
営業利益又は営業損失()	1,481	105
営業外収益		
受取利息	11	12
受取配当金	0	0
受取クレーム補償金	4	11
為替差益		37
雇用調整助成金		54
その他	24	22
営業外収益合計	40	139
営業外費用		
支払利息	91	115
為替差損	118	
その他	52	11
営業外費用合計	262	126
経常利益又は経常損失()	1,259	92
特別利益		
固定資産売却益	0	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産廃棄損	0	0
出資金評価損		10
特別損失合計	0	10
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,259	101
法人税、住民税及び事業税	145	73
法人税等調整額	24	48
法人税等合計	170	121
四半期純利益又は四半期純損失()	1,089	222
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	1,089	222

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	1,089	222
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	13	78
退職給付に係る調整額	40	71
その他の包括利益合計	26	6
四半期包括利益	1,116	229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,116	229
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,259	101
減価償却費	474	496
のれん償却額	1	
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	83	22
賞与引当金の増減額(は減少)		27
貸倒引当金の増減額(は減少)	6	55
受取利息及び受取配当金	11	13
支払利息	91	115
為替差損益(は益)	52	17
有形固定資産廃棄損	0	0
売上債権の増減額(は増加)	1,269	794
たな卸資産の増減額(は増加)	896	804
仕入債務の増減額(は減少)	173	1,609
未収消費税等の増減額(は増加)	58	0
未払消費税等の増減額(は減少)	53	100
前受金の増減額(は減少)	227	88
未払金の増減額(は減少)	524	816
その他	255	254
小計	2,396	571
利息及び配当金の受取額	11	13
利息の支払額	92	119
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	498	96
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,816	582
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	287	689
有形固定資産の売却による収入	0	2
無形固定資産の取得による支出	55	5
資産除去債務の履行による支出		14
定期預金の払戻による収入	11	81
その他		57
投資活動によるキャッシュ・フロー	331	683
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	450	450
短期借入金の返済による支出	5,130	1,450
長期借入れによる収入	2,000	2,000
長期借入金の返済による支出	819	1,000
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	63	63
その他	32	24
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,595	88
現金及び現金同等物に係る換算差額	37	53
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,147	1,408
現金及び現金同等物の期首残高	4,194	5,761
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,047	1 4,353

【注記事項】

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給料及び賞与	449百万円	429百万円
賞与引当金繰入額	80	73
退職給付費用	24	31

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	2,220百万円	4,428百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	173	74
現金及び現金同等物	2,047百万円	4,353百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	63	10.00	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	63	10.00	2020年3月31日	2020年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	工作機械 関連事業	輸送機器 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,700	5,044	13,745	35	13,780		13,780
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	0	11		11	11	
計	8,711	5,044	13,756	35	13,792	11	13,780
セグメント利益	1,390	64	1,455	25	1,481		1,481

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	工作機械 関連事業	輸送機器 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,803	3,360	9,163	35	9,199		9,199
セグメント間の内部売上高 又は振替高	116		116		116	116	
計	5,919	3,360	9,279	35	9,315	116	9,199
セグメント利益又は損失()	257	388	131	25	105		105

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引は、将来の為替変動によるリスク回避を目的とした為替予約取引であり、投機目的のデリバティブ取引は行っておりません。

前連結会計年度末(2020年3月31日)

対象物の種類	取引の種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
通貨	為替予約取引			
	売建			
	米ドル	1,770	11	11
	ユーロ	465	1	1
	タイバーツ	67	0	0
	中国元	361	3	3

(注) 時価については、取引先金融機関から提示された価格を使用しております。

当第2四半期連結会計期間末(2020年9月30日)

対象物の種類	取引の種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
通貨	為替予約取引			
	売建			
	米ドル	1,770	21	21
	ユーロ	467	18	18
	タイバーツ	92	0	0
	中国元	361	10	10

(注) 時価については、取引先金融機関から提示された価格を使用しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	172円78銭	35円36銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	1,089	222
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	1,089	222
普通株式の期中平均株式数(株)	6,306,573	6,306,032

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月10日

エンシュウ株式会社
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

名古屋事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	小	出	修	平
指定社員 業務執行社員	公認会計士	堤		紀	彦

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエンシュウ株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エンシュウ株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項

が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。